

2020年度 自己推薦(前期)入学試験

歴史文化学科	小論文	受験番号					氏名	
--------	-----	------	--	--	--	--	----	--

問 次の文章は歴史学とは何かについて論じた文章の一節です。著者が挙げているような例はたくさんあります。さて、著者はこの例によって何を示したいのでしょうか、また、この文章を踏まえて、歴史を勉強する際にどのような点に注意すべきかについて、あなたの考えをまとめなさい(800字)。

… [イギリス]の標準的な年代記に、とかくある国王は「善良」とし、ある国王は「不良」として記述してあるのに気づく。どうしてこういうはっきりした差別がつけられるようになったのだろうか。それは中世イギリスの史料に原因がある。これら年代記のほとんどは学識と経験に富む修道僧の手によって記録されたものであるが、それは当時の世論ともいべきものの上層部を伝えるものであった。すなわち彼らにとっては、善良なる国王は明らかに信心深く、気前よく教会に寄附をし、教会幹部の意見を尊重する国王であった。一方不良なる国王はこれと反対に振る舞った国王であった。たとえばジョン*は長いあいだ不良なる国王のこの上もない標本であった。すなわちある面において好ましからざるかれの私行と、貴族および高位の聖職者たちに対して行ったかれの要求とのために、かれはこれら両者のあいだではなほだしい不評を蒙ったのである。これに対し、…[現代の]中世史研究者たちは、かれの行政記録を調べて、ジョンが行政面ですぐれた才能をもっていたことを認めている。…かれの行った通貨改革、貿易の振興、海軍ならびに国防の強化、都市の自治の育成、さらに諸侯会議対策でさえも、否定することのできない功績の遺産を形づくっている。さらにその時代の文献に照らして判断するとき、かれはその私的性格においても随分ひどく誹謗されているように思われる。…しかるに当時の年代記作者の偏見があまりにも強かったために、…19世紀の歴史家たちは、一方にかれの行政手腕を認めながら、なおかれの放縦をすっかり赦すことはできなかったのである。… (E. H. ノーマン著、大窪 愿二訳『クリオの顔』岩波書店、1986年 一部表現を改めた)

出題者注* ジョン(在位1199-1216)は、イギリス中世の王。フランス貴族の婚約者を略奪して結婚した。フランスと戦い、領土の多くを失ったが、戦費をまかなうために、臣下の土地を奪ったり税を徴収しようとして諸侯との戦争となる。その結果、諸侯の諸権利を保障する大憲章を承認させられた。また、教会と対立し、破門された。

2020年度 自己推薦(前期)入学試験

歴史文化学科	小論文	受験番号					氏名	
--------	-----	------	--	--	--	--	----	--

(横書き)

